

がん計画における評価の活用： 評価事業の方針と行程

がん対策を評価する枠組みと 指標の策定に関する研究 (H24-3次がん-指定-002)



本報告の位置づけ

がん対策を評価する枠組みと指標の策定に関する研究 (H24-3次がん-指定-002)

主任研究者

東京大学

保健社会行動学

橋本英樹

分担研究者

福島県立医科大学

第一外科

後藤満一

東京医科歯科大学

医療政策情報学

伏見清秀

国立がん研究センター

がん情報提供研究部

高山智子

東京大学

医療品質評価学

宮田裕章



評価事業の今後の進め方

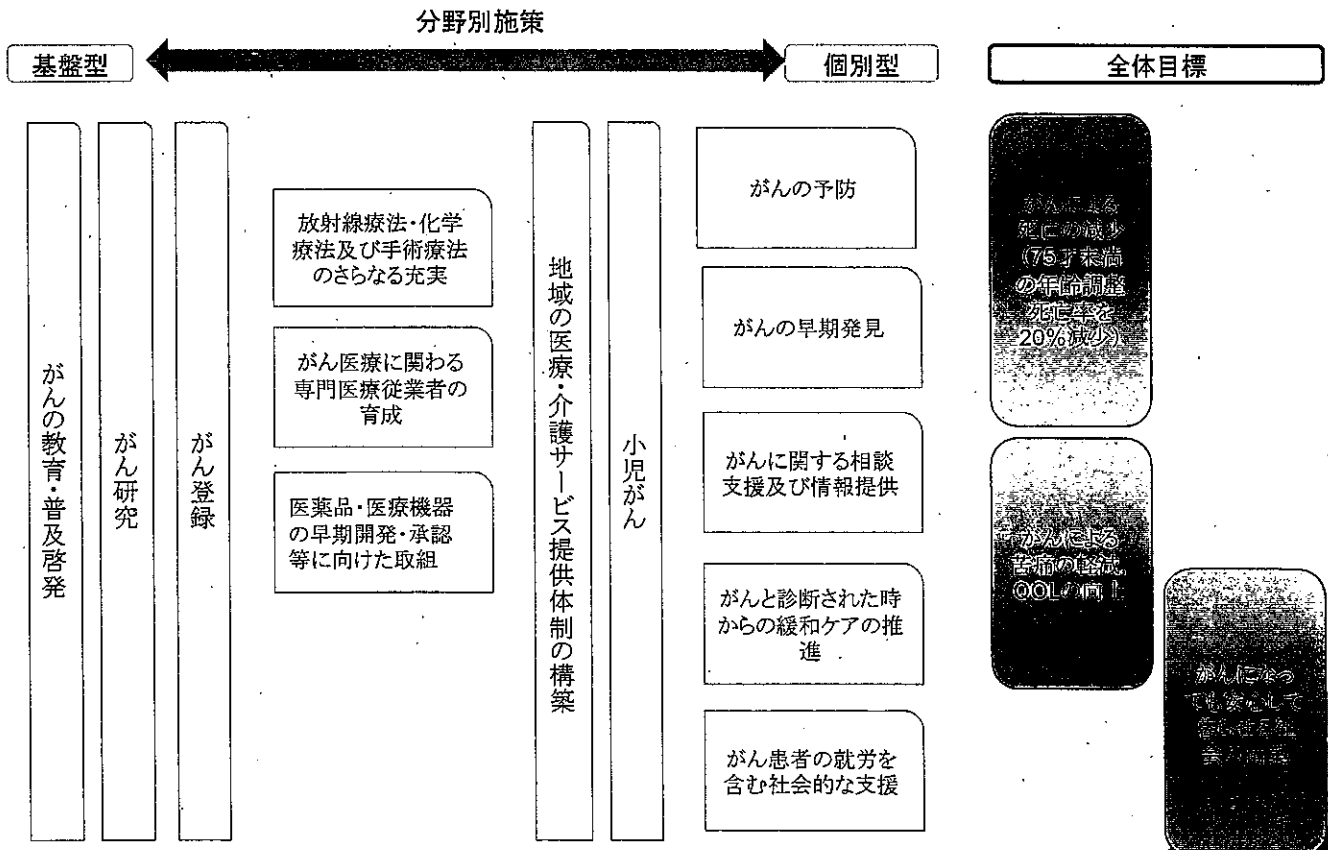
がん対策を評価する枠組みと指標の策定に関する研究 (H24-3次がん-指定-002)

1. がん対策を評価する枠組みを多角的視点から検証
2. 既存の資料の活用案の提示

がん対策推進協議などにおける指標の選定に先駆けて、その前提となる評価の目的・あり方の枠組みを提示し、目的指向をもった効果的な評価のための基盤を提示する

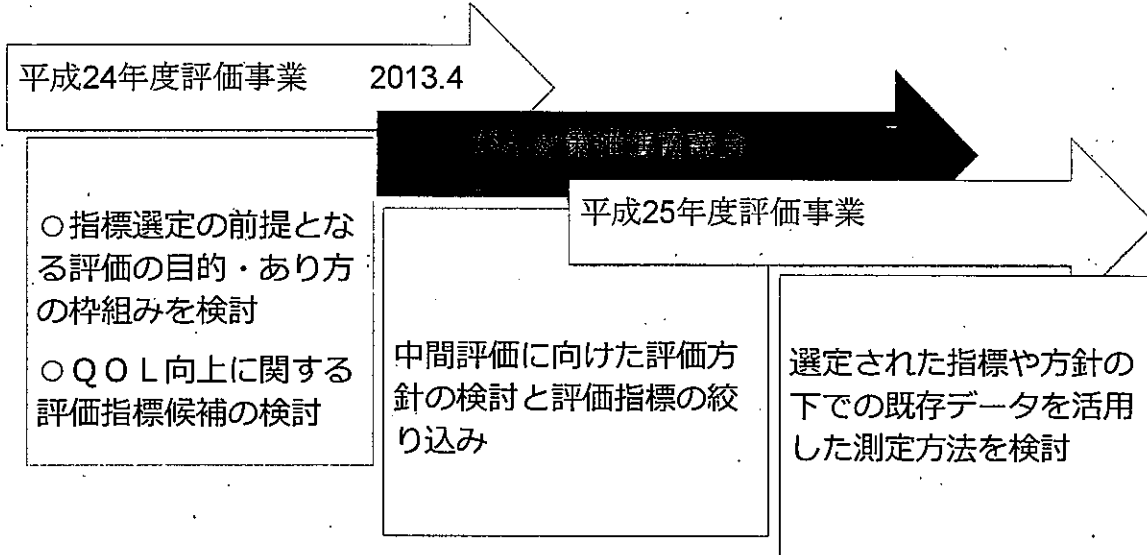


全体目標と各分野別目標を踏まえて、評価枠組みを検討する



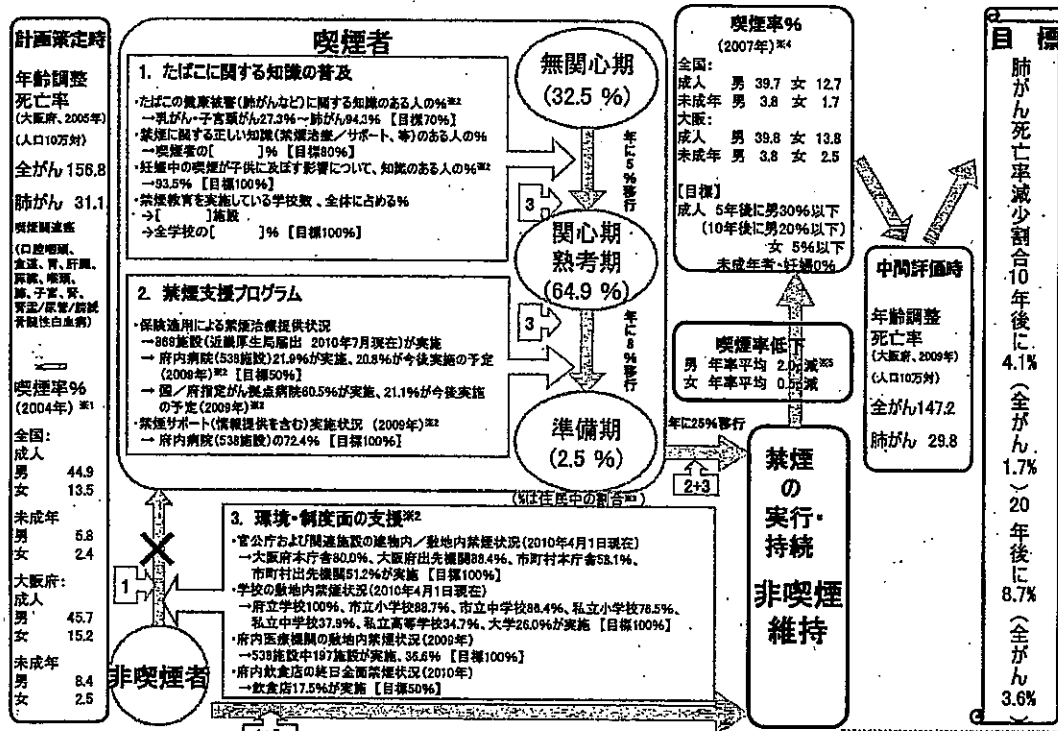
評価事業の今後の行程

1. がん対策を評価する枠組みを多角的視点から検証
2. 既存の資料の活用案の提示



様々なステークホルダーの視点を共有する 例：大阪府

図2. たばこ対策の進捗状況-対策の流れ、必要な行動、評価指標(指標の最新値と目標値)



※1 厚生労働省、平成16年度国民生活基礎調査 ※2 大阪府九つご対策調査-資料 <http://www.pref.osaka.jp/kankuzoku/tabacco/chousaisyoryu.html>
※3 大阪府健康福祉部 健康大阪21中間評価実施調査(平成17年) ※4 厚生労働省、平成19年度国民生活基礎調査 ※5 逆の単位を「ポイント」とした

目標達成へのプロセス



がん予防における評価指標の考え方

活動	アウトプット	アウトカム	2次アウトカム
禁煙支援プログラムの提供	喫煙規制条例を施行している行政の増加	成人男性喫煙率の低下	がんによる死亡の減少 (75才未満の年齢調整死亡率を20%減少, 75才以上の健康寿命*の増加)* 要定義
地方自治体に対する条例設定のサポート	適切な喫煙対策を行っている事業所の割合の上昇	成人女性喫煙率の低下	
事業所における喫煙対策のサポート	喫煙に対するイメージの低下	喫煙者の増加	
たばこの販売方法, たばこパッケージに対する規制	たばこ販売数の低下	新規喫煙者の減少 未成年喫煙率の縮減	

アウトカム関連指標は既に確立しているため、各地域の活動に対応した指標を収集して、総合評価を行うことが重要になる可能性がある



研究班の2013年の研究の進め方 II

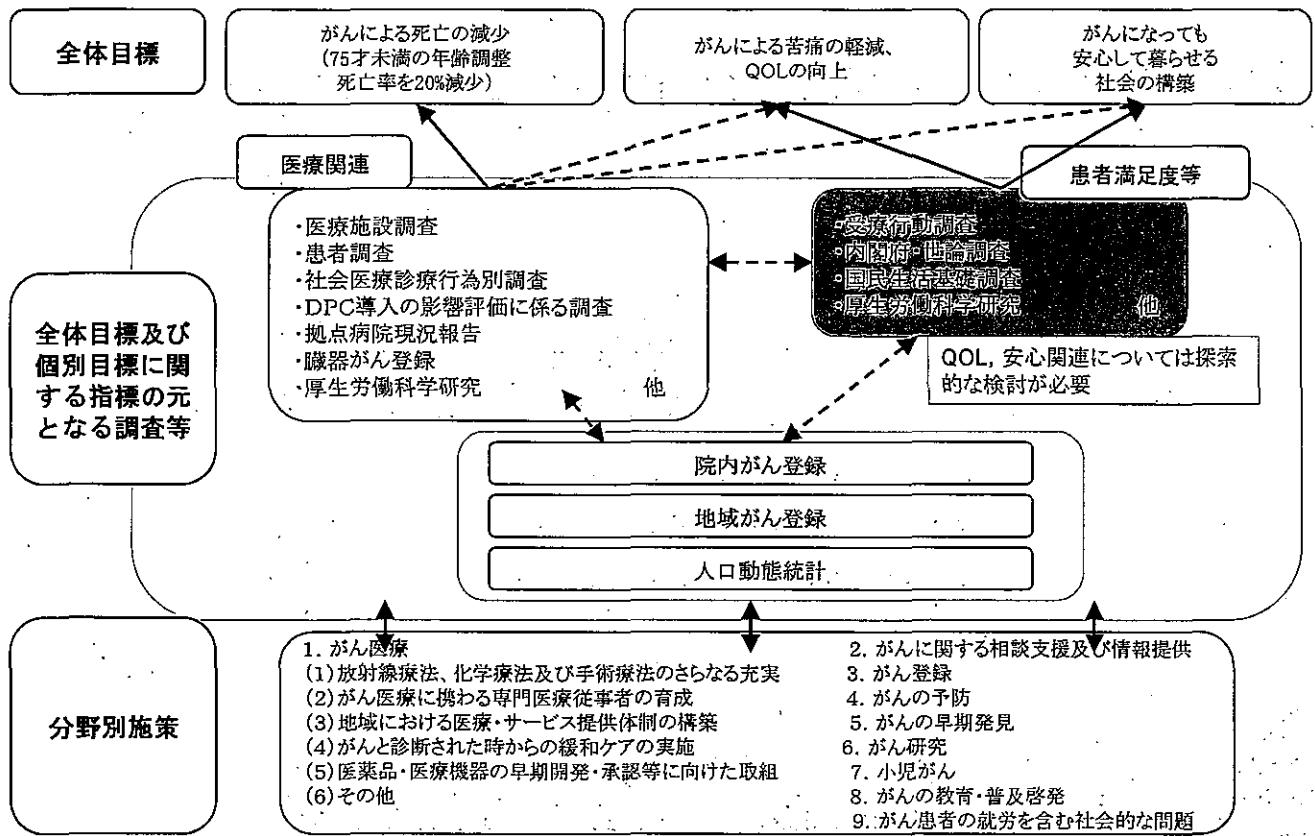
がん対策を評価する枠組みと指標の策定に関する研究 (H24-3次がん-指定-002)

3. QOL関連の評価枠組みの検討

患者視点からアクセス-診断-治療-フォローアップの流れ (value-chain) を支援するための機能について拠点病院の現状と可能性を検討する

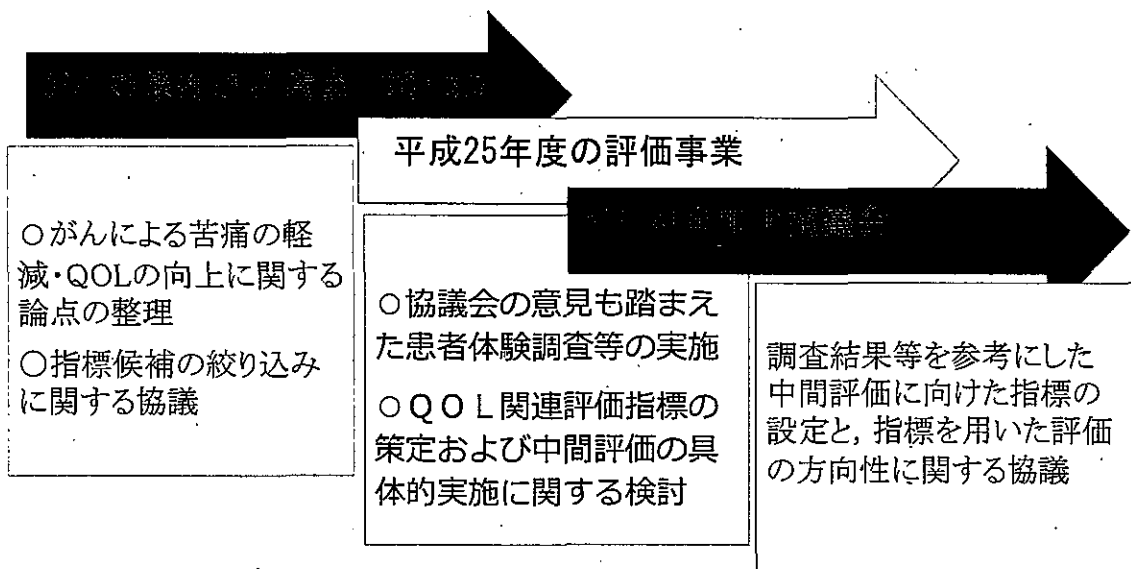


QOL, 安心して暮らせる社会の構築をどの様に把握するか



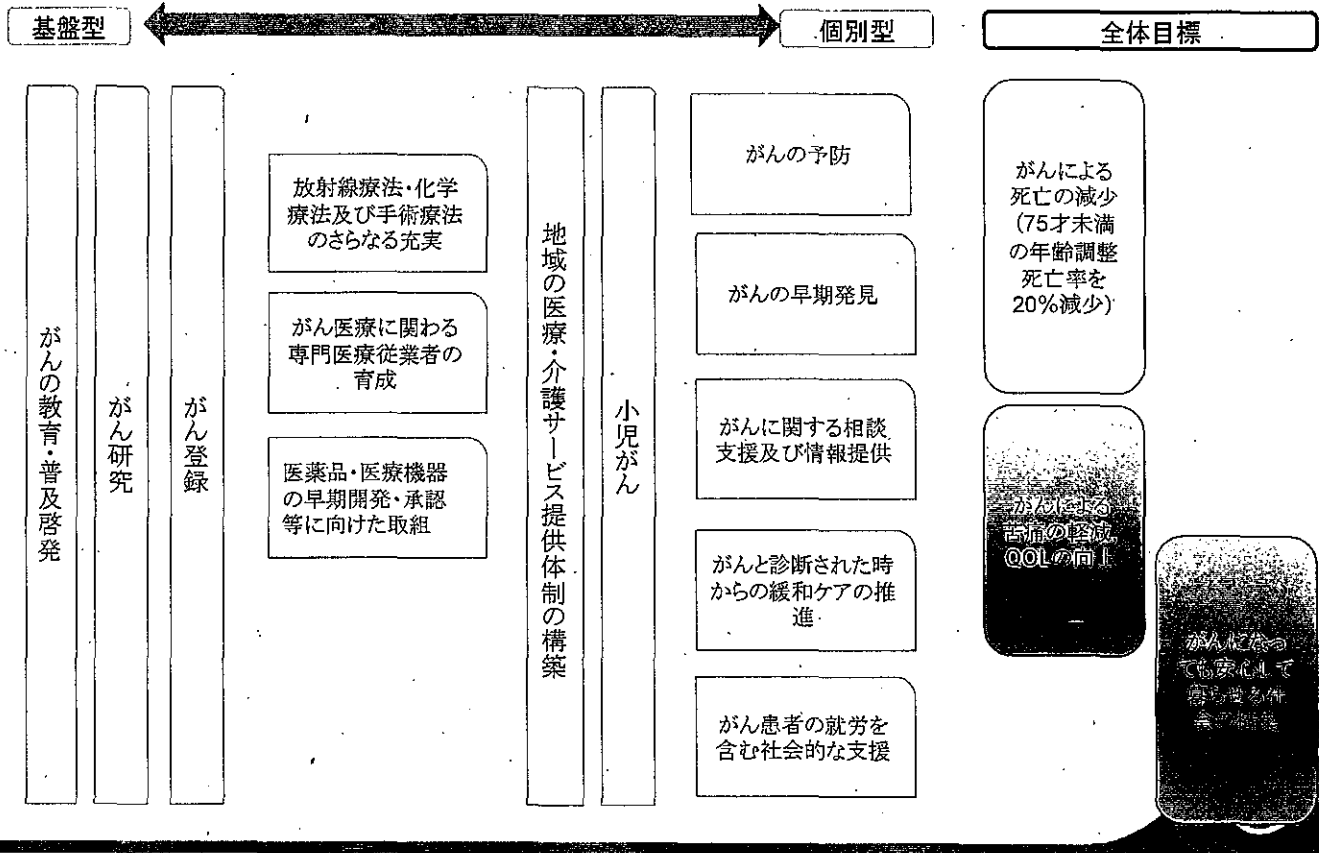
評価事業の今後の行程

3. QOL関連の評価枠組みの検討

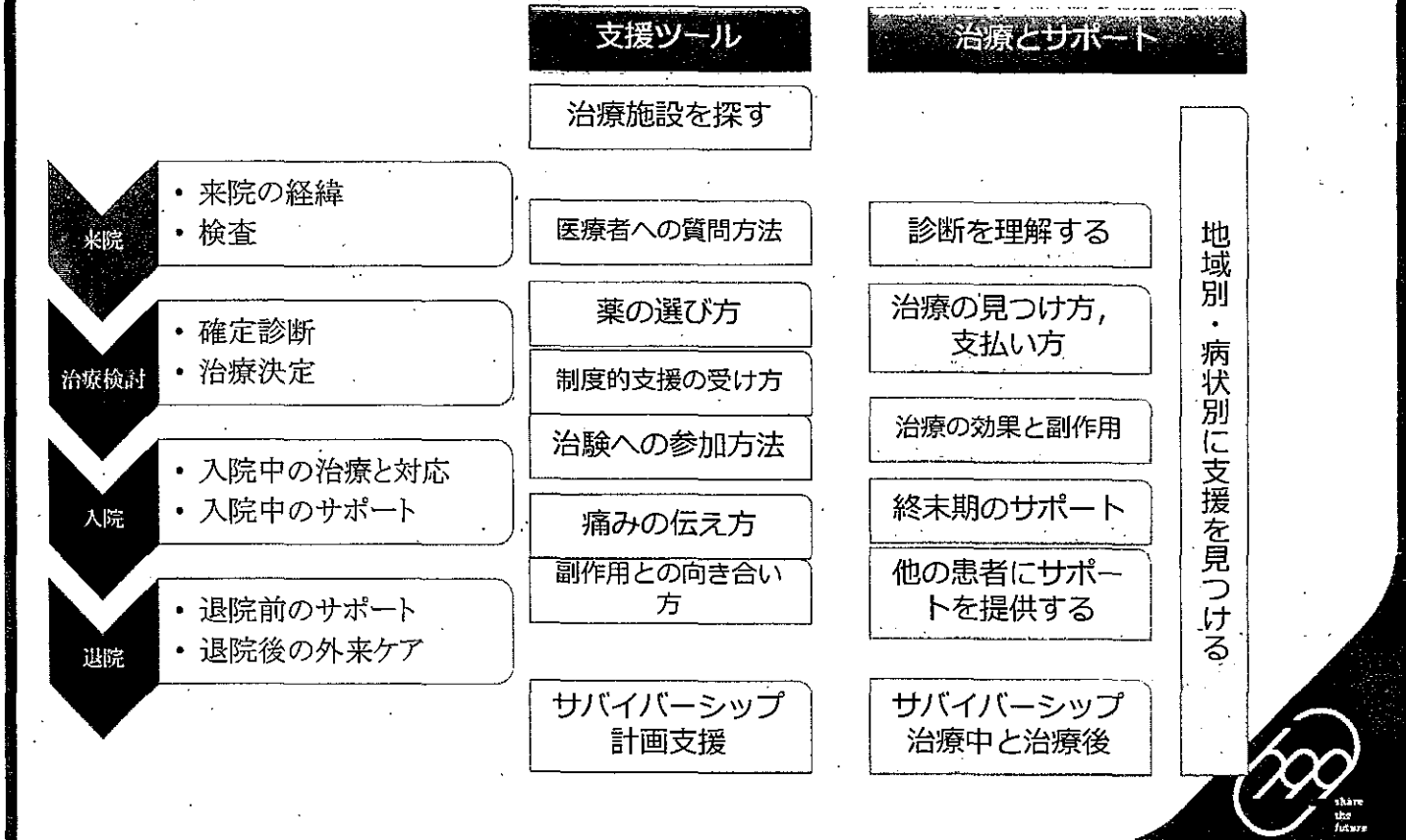


QOLの向上, 安心して暮らせる社会の構築に寄与する 評価を行う上で患者の経験を明らかにする

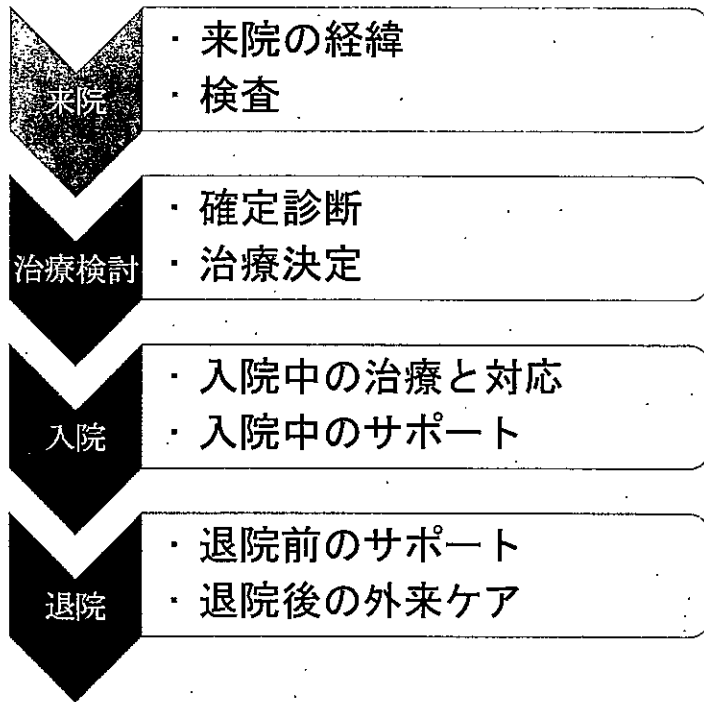
分野別施策



Patient Journeyに対応したサポートのあり方 American Cancer Society



病院における患者体験の調査の考え方



調査対象者

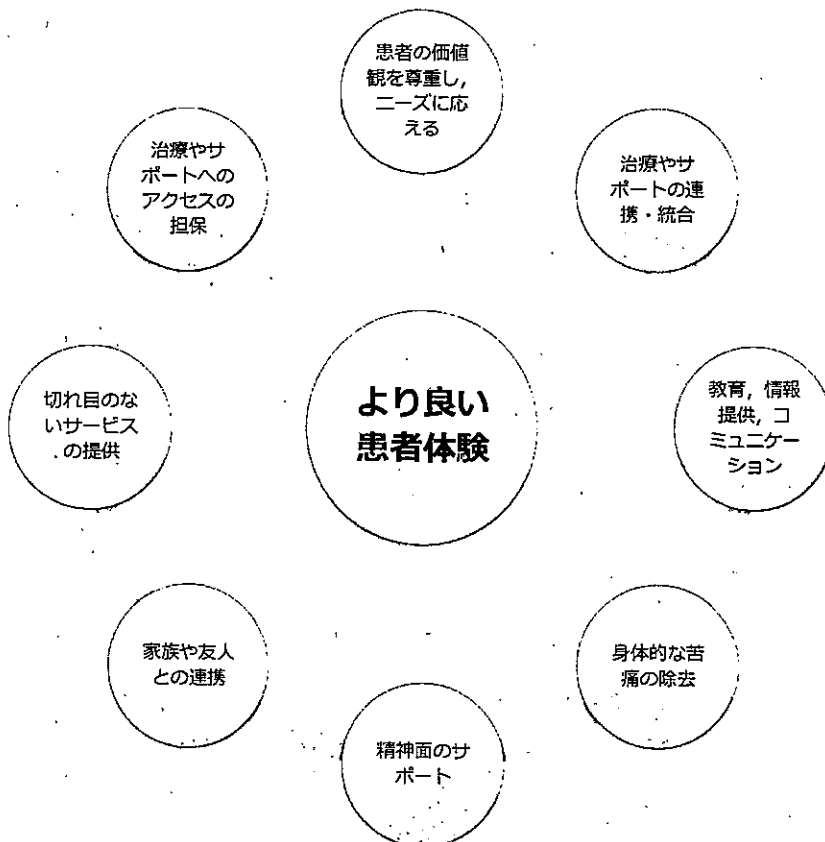
「拠点病院の入院患者OR外来患者」

来院の経緯や退院後の外来ケアやサポートについて質問することにより patient journeyをある程度把握する。

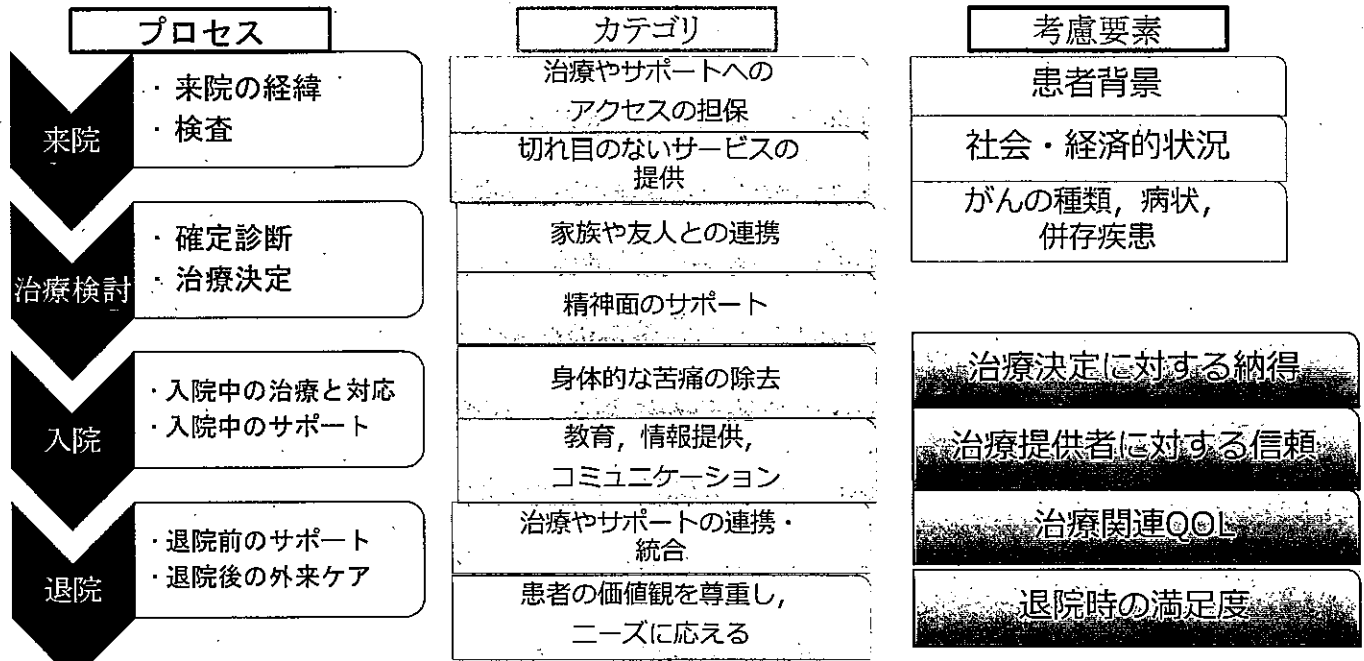
一定規模の病院で調査の実行可能性を確認した後に、小規模病院における実施も検討する。



より良い患者体験を構成する上で考慮すべき要素 英国National Health Service



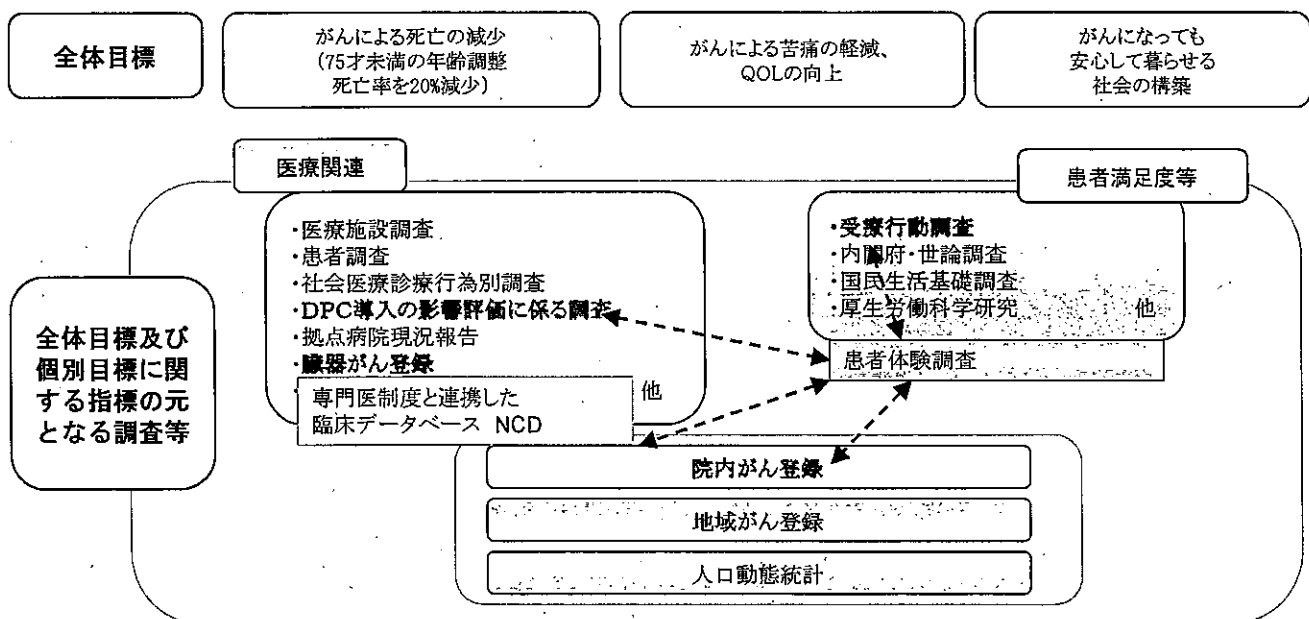
指標候補の検討に当たっての検討の視点 (論点案)



- 満足度やQOLを直接的に測定するのではなく、患者体験に関連する項目を幅広く把握し、現状を明らかにしてはどうか。
- QOL指標の対象とする患者プロセス及びカテゴリは妥当か。
- 考慮すべき要素をどのように扱うべきか。 など



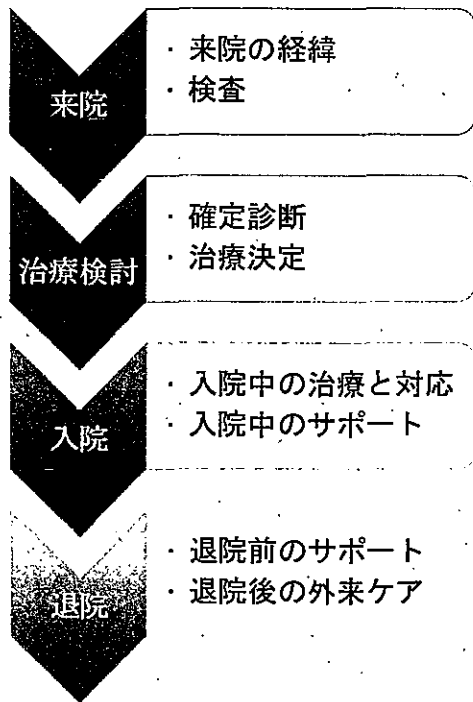
病院における患者体験の調査と他調査の連携可能性



がん登録や臨床データベースと連携することにより、がんステージや併存疾患、治療関連合併症などを考慮した重症度補正・リスク層別化指標を検討することが出来る。

受療行動調査との連携により地域の経時変化を考慮した検討を行うことも可能

QOLの向上, 安心して暮らせる社会の構築 についてより適切な評価枠組みとする為に



がん対策推進協議会

協議会委員の意見の共有と委員会における議論を調査枠組みに反映させる

有識者ヒアリング

ロジックモデル形成過程で収集される論点も活用する

がん経験者

フォーカスグループディスカッションや個別インタビューを通じて、論点を抽出する。



